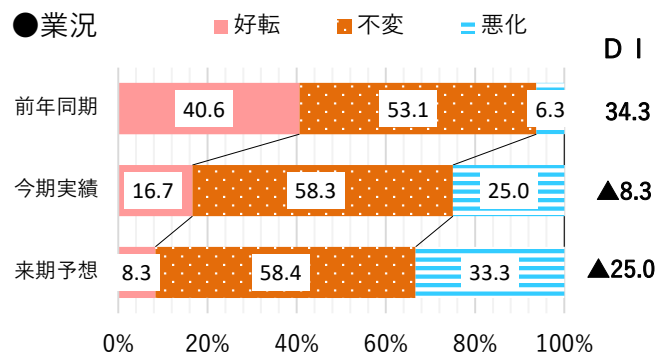


観光業

業況、売上、採算

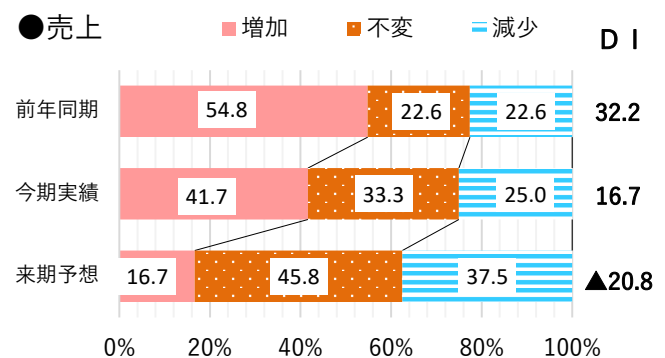
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲8.3で、前年同期（2024.7～9）と比べ42.6ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ16.7ポイント低下すると予想しています。



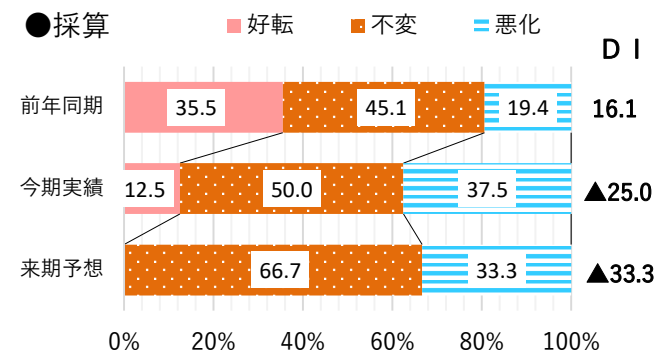
今期の売上DIは16.7で、前年同期と比べ15.5ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ37.5ポイントと大幅に低下すると予想しています。

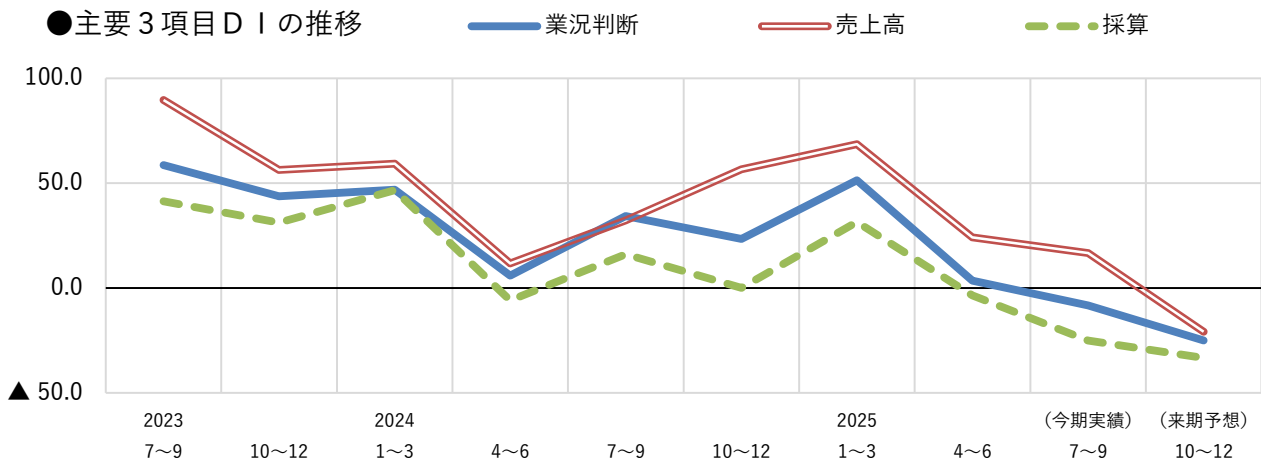


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ8.3ポイント低下すると予想しています。



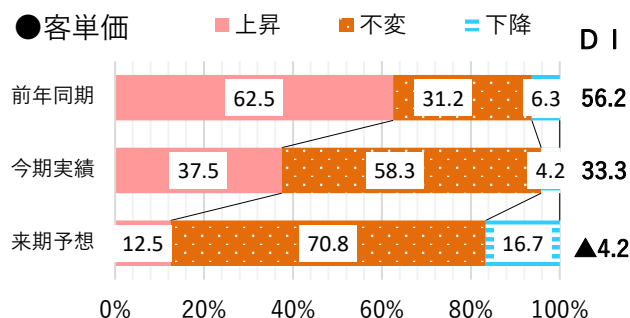
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

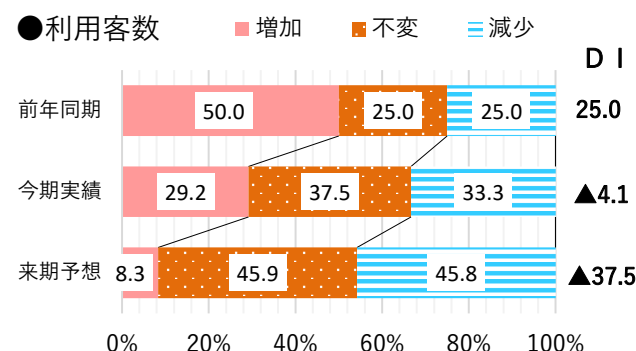
今期の客単価DIは33.3で、前年同期と比べ22.9ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ37.5ポイントと大幅に低下すると予想しています。



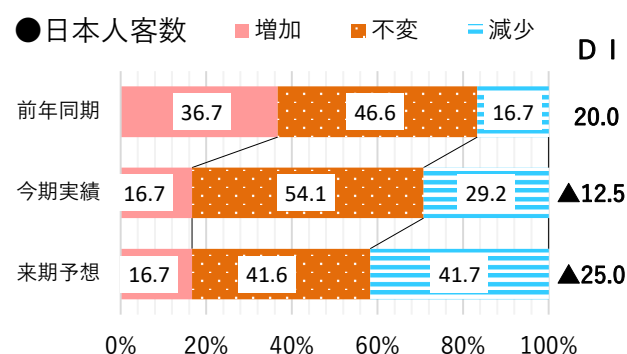
今期の利用客数DIは▲4.1で、前年同期と比べ29.1ポイント低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ33.4ポイントと大幅に低下すると予想しています。



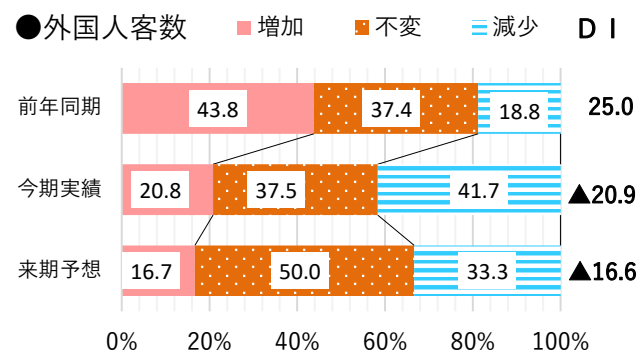
今期の日本人客数DIは▲12.5で、前年同期と比べ32.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ12.5ポイント低下すると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲20.9で、前年同期と比べ45.9ポイントと大幅に低下しました。

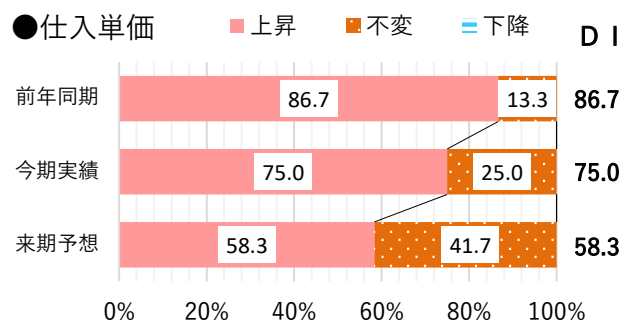
来期の外国人客数DIは今期と比べ4.3ポイント上昇すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは75.0で、前年同期と比べ11.7ポイント低下しました。

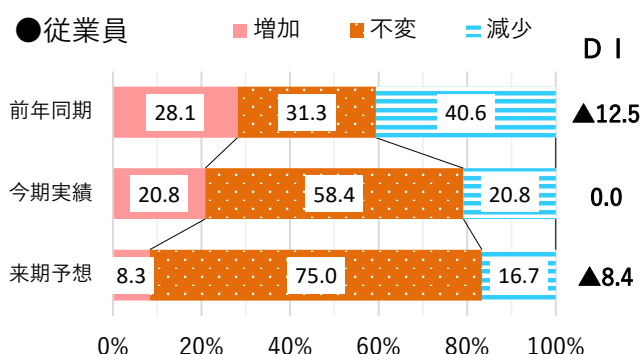
来期の仕入単価DIは今期と比べ16.7ポイント低下すると予想しています。



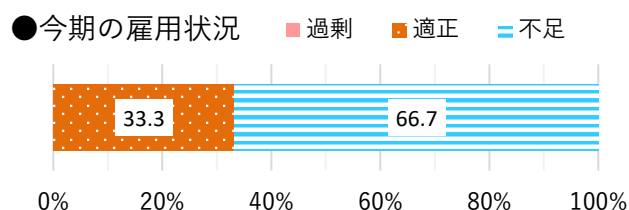
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ8.4ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



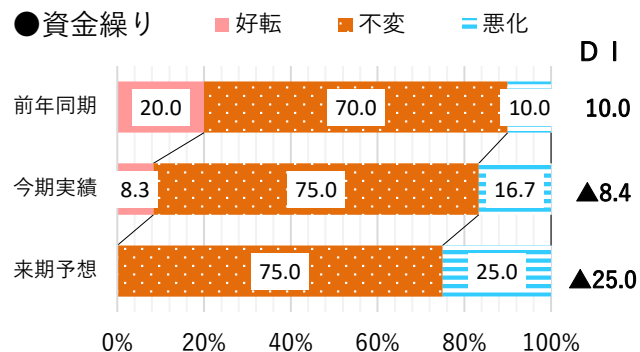
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、37.5%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

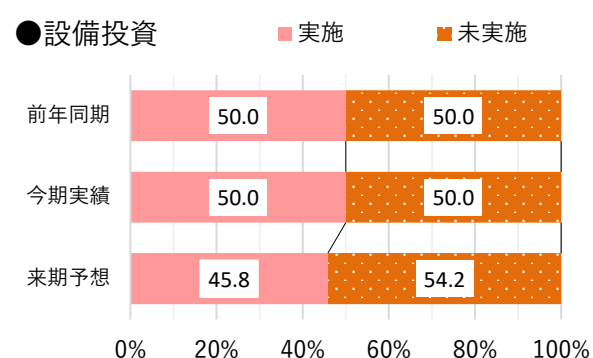
今期の資金繰りDIは▲8.4で、前年同期と比べ18.4ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ16.6ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べて変化なしでした。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「OA機器」でした。

来期は45.8%が設備投資を計画していると回答しています。

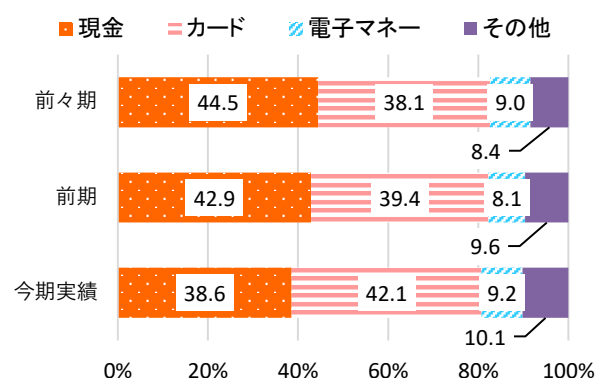


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で42.9%、2位がカードで39.4%、3位がその他で9.6%、4位が電子マネーで8.1%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、クーポン券、バウチャー、銀行振込、バーコード決済の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

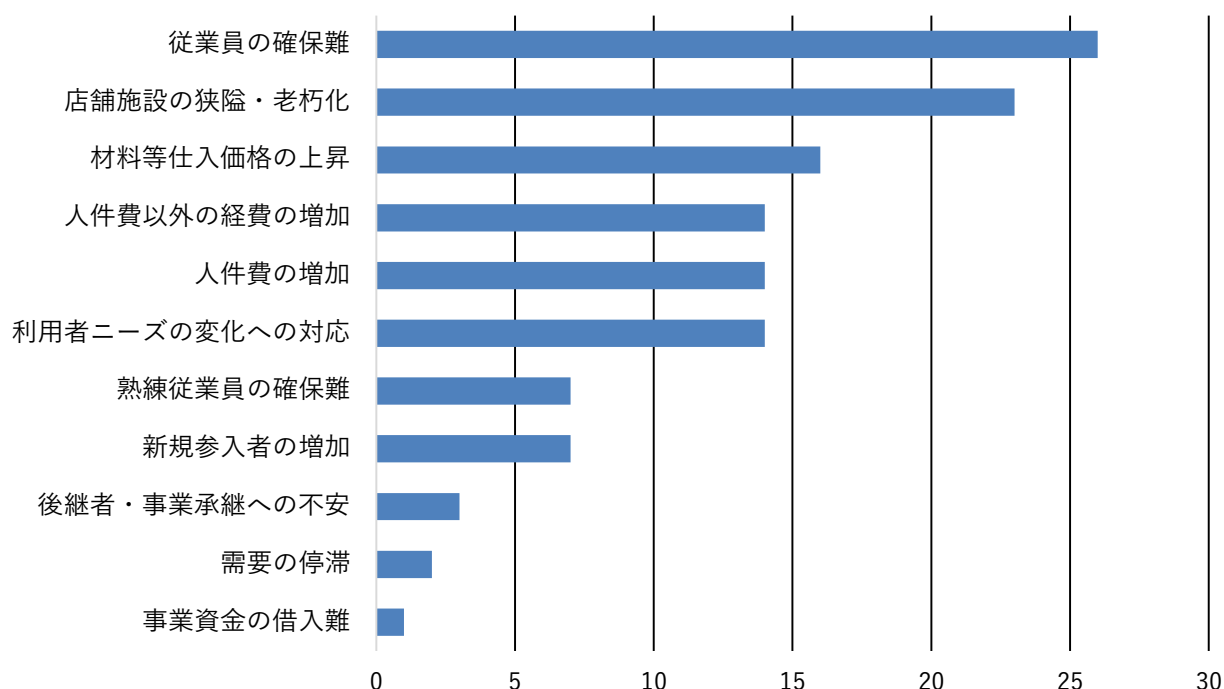


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は79.7%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 8月より値上を実施し、なんとか黒字になりつつある状況。（飲食）
- 接客人数が足りなく、対応できない。（飲食）
- 業況は、総じて微減で堅調に推移した。観光客数は、インバウンド客が昨年同期比で勢いがなく微減で、国内客は不変であった。インバウンドは売上高も微減であった。仕入価格が上昇したが、販売価格の値上で収支は微減。若い社員が退職したが、業況が停滞していたのでパート、アルバイトで補った。賃金の上昇圧力は、極めて強いものがあった。（土産品）
- 前年並。（土産品）
- 人手不足で対応が出来ない。（レンタカー）
- 国内旅行が好調。（レンタカー）
- 売上は単価上昇で微増だが原価、経費の上がり分を吸収できない。（ホテル）
- 仕入価格が高騰し、供給過多と札幌への流動が見られた。（ホテル）
- インバウンドは当ホテルはそんなに多くなく不変。（ホテル）
- 地震のうわさによる影響から予約が減少した。（ホテル）
- 例年に対して海外からのお客様が多く、対して国内客は維持という状況のため、利用客数はプラスであった。（社会教育）
- 昨年同期と比較し、天候にも恵まれ売上・乗船客数とも増加した。（水運業）
- 売上高は若干増加し、仕入価格は上昇も粗利が増加した。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 接客人数が足りなく、多忙期のため対応できない。（飲食）

- 仕入価格、経費が高騰するので採算面が不安。（飲食）
- 景況は低迷期に入ると予想している。国内客は不変であるが、インバウンドの減少が、今後顕著になり、来店客減に伴って売上高が減少する。令和の米騒動で主原料の高騰が現実化しており、仕入価格の大幅な増加を覚悟しているが、販売価格を上げるのは躊躇しているため収支は悪化すると思われる。人手不足を解消するために外国人社員の採用を予定しているが、今秋の最低賃金が上昇で人件費の増加と収支の悪化を見込むため前期比、前年同期比で業況は、大幅に悪化すると悲観的な予想をせざるを得ない。
（土産品）
- 不変である。（土産品）
- 人材の増員が出来れば業況好転の可能性はある。（レンタカー）
- インバウンドは当ホテルはそんなに多くなく不変。パートが若干少なかったが補充できたので問題ない。
（ホテル）
- 売上は単価UPで微増だが原価、経費の上がり分を吸収できない。（ホテル）
- 仕入価格が高騰し、供給過多と札幌への流動が見られた。（ホテル）
- 夏に比べると学校団体の割合が増えてくるため客単価が若干下がる。外国人観光客の増加がそれをどこまで抑えられるか注目している。（社会教育）
- 今期は年間で最も売上、乗船客が多い時期であったが、来期は減少が見込まれる。（水運業）
- 閑散期に入る。（娯楽業）